

令和 6 年度自己評価結果公表シート

一. 教育目標

心身共に健康で円満な人格形成の基盤を培い、創造性を養い、幼児の個性を伸ばすことを目標としています。

1. 自分で考え、工夫するたくましい子に育てます。(自立)
2. のびのびと自分を表現できる子に育てます。(個性)
3. 社会のルールを身に付けた協調性のある子に育てます。(社会性)
4. 優しく思いやる子に育てます。(心)

二. 本年度の重点目標

文部科学省の幼稚園教育要領が目指す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の実現に向け、本園では教育目標を基盤にした指導を工夫して展開していきます。そのために、全職員が「育ってほしい 10 の姿」についての理解を深め、過度な知識やスキルの訓練ではなく、保育環境や遊びを通じた教育を実践することを重点目標とします。また、クラスや学年の枠を超えた連携・協力を強化し、教育に取り組む体制を築くことにも力を入れていきます。

三. 自己評価結果

自己評価は段階評価とした。この評価結果は三学期末での評価である。4 点満点であり評価点は教職員の平均点である。

達成されている	A	概ね達成されている	B
取り組まれているが十分ではない	C	取り組みが不十分である	D

I 保育の計画性

1. 園の教育理念・教育方針の理解	評価
・園の教育理念や教育方針を理解している。	B
2. 幼稚園教育要領の理解	評価
・幼稚園教育要領の内容について、園長や教職員と話し合っている。	B
3. 教育課程の編成	評価
・園の教育課程をもとに、保育の計画をたてている。	B
4. 指導計画の作成	評価
・園の方針を月案や保育に活かし作成している。	B
・幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。	A
5. 環境の構成	評価
・遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している。	A
・子どもの動線、目線に配慮した環境構成をしている。	A
・季節の変化に応じた環境構成をしている。	A
6. 保育と計画の評価・反省	評価
・自分の保育と計画の評価・反省を行なっている。	A
・自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に活かせるように行っている。	B

Ⅱ 保育のあり方・子どもへの対応

1. 健康と安全への配慮	評価
・朝の登園時は特に視診を大切にして、子どもの体調が悪くないか確かめている。	A
・万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者へ連絡を取り、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている。	A
2. 子どものみとりと理解	評価
・一人ひとりの子どもをよく観察するよう心がけている。	A
・子どもの姿を、家庭での生活をふまえて理解している。	B
・子どもたちがいま何に興味や関心を持っていることが分かる。	B
3. 指導とかかわり	評価
・子どもの気持ちに共感しながら一緒に遊ぶ。	B
・子どもの心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない。	A
・子どもの話をよく聞くようにしている。	A
4. 保育者同士の協力・連携	評価
・教職員全員がすべての園児について理解し情報を共有する。	B
・指導上配慮を必要とする子どもについて、園全体で特によく話し合い、共通理解を持って対応する。	B
・クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換する。	A

Ⅲ保育者としての能力や良識・適正

1. 専門家としての能力・良識・義務	評価
・保護者に対し、子どものことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができるよう努めている。	B
・子どもや保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている。	A
・クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。	B
2. 組織の一員としてのあり方	評価
・教職員全員でひとつのチームであることを意識する。	A
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる。	B
・与えた役割を、最後まで責任を持ってやり遂げることができる。	B
3. 保育者として保育の楽しみ・喜び	評価
・子どもと会話をしたり遊んだりすることが好きで、ささやかな成長を喜ぶことができる。	A
・子どもの悩みに寄り添い共に考え、望ましい方向へ変容していく過程に喜びを感じる。	A
4. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	評価
・仕事も大切にしながら自分の時間も大切にする。	A
・子どもや教育に関する情報をたえずとらえようとし、社会の出来事にも目を向ける。	B

IV 保護者への対応

1. 情報の発信と受信	評価
・ クラスの子どもの様子や保育のポイント、自分の考え方などを毎月のクラスだよりなどで知らせている。	B
・ 個々の子どもの様子は、直接話をしたり電話やアプリのメッセージ機能を使って伝えている。	A
・ 年3回個人懇談を設け、個々の子どもの特性を保護者に伝えている。	A
2. 協力と支援	評価
・ 保護者からのさまざまな訴えや要望、意見については、安易に受けたり断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任に報告や相談を行っている。	A
・ 保護者の協力が必要な場合、園長と協議し具体的な協力のあり方について話し合っている。	A
3. 守秘義務の遵守	評価
・ 保護者の住所や電話番号など、個人情報の管理は園の方針に従い、子どもや家庭の情報を口外しない。	A
4. 対応上のマナー・良識	評価
・ 園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がける。	A
・ 保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応する。	A
5. クレームに対する対処の仕方	評価
・ 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談する。	A
・ クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する。	A

V 地域の自然や社会との関わり

1. 情報の発信と受信	評価
・園に対するさまざまな問い合わせや質問にはきちんと対応することができる。	B
・園へ見学にきた人に園の教育方針等を質問されてもきちんと答えることができる。	B
・いつでも保護者と個人懇談ができるよう、子どもの資料が整理できている。	B

VI 研修と研究

1 研修・研究への意欲・態度	評価
・研究保育を参観するときは自分なりの課題と視点をもって観る。	B
・自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行なう。	B
2 教材研究	評価
・遊具や教材について、その特徴や基本的な使い方を知っている。	B
・遊具や教材について、その利用方法について工夫研究している。	B
・ICT や新しい教具について研究している。	C
3 自らを高めるための学習	評価
・保育の専門知識や技能の他に、趣味や読書などにも取り組んでいる。	B
・いろいろな人とのかかわり、自分の視野を広げようとしている。	B

四. 学校評価における総合的評価

本年度、計画的な保育の実践に向けて日々努力を重ねてきた。教育課程に基づく保育計画の立案については、教育要領の理解や活用に課題が残ったものの、週案への反省の記入を通して日々の保育を見直す習慣は定着しつつある。また、環境構成については、実際の保育の中で子どもの姿を見ながら柔軟に調整し、CLM 研修にも参加し学びながらより適切な保育環境の構築に取り組んできた。

子どもへの対応においては、観察を重ね、保育者間での情報共有を通して、子ども一人ひとりの理解に努めてきた。特に、配慮が必要な子どもへの対応については意識的に取り組んできたが、全体の子どもの把握については偏りが生じる場面も見受けられ、今後の課題と認識している。

保護者対応においては、直接の対話を重視し、信頼関係の構築に努めている。文章での伝達に不安を感じながらも、丁寧なコミュニケーションを心がけた。また、自らの意見を述べる姿勢を持つ一方で、周囲からの意見を受け止める柔軟さについても自覚があり、より良い関係づくりを今後行っていきたい。総じて、自己の保育を見直しながら誠実に職務にあたっていると感じている。

五. 今後取り組むべき課題

今後は、教育課程および教育要領の理解を一層深め、それに基づいた月案・週案の立案と実践への落とし込みを徹底する必要がある。年間の教育目標や指導計画を意識し、それを日々の保育に的確に反映させることが求められる。保育のねらいや意図を明確にし、計画的かつ意図的な保育活動を実践する力を養うことが課題である。

子どもの理解においては、個への寄り添いだけでなく、全体の子どもを見渡す視点を持っていきたい。

また、ICT については苦手意識のある教員が多かったので、専門的な研修にも今後参加を検討したい。

日々の保育を丁寧に振り返る姿勢は今後の成長の基盤である。自己評価を糧に今後さらに専門性を高め、保育の質の向上を図っていきたい。

六. 学校評価委員会の評価（12 月誕生日会、日常保育、給食試食を行った）

以下、委員会後のアンケートをまとめたものである。

本園に通う子どもたちは、明るく素直で、表情豊かに日々の生活を楽しんでいる様子がうかがえる。自分の気持ちを自由に表現し、のびのびと過ごす子どもたちの姿は、園のあたたかい保育環境の賜物である。挨拶や歌声からも元気と楽しさがあふれ、園全体に明るい雰囲気が広がっている。

行事においても、子どもたちが無理なく意欲的に取り組める内容となっており、年間を通じてバランスよく構成されている。特に12月の誕生日会とクリスマスコンサートでは、園児とコーラスが一体となり、保護者にとっても心に残る温かいひとときとなった。子どもたちはお行儀も良く、終始落ち着いた雰囲気に参加しており、先生方の丁寧なご指導の成果が感じられた。時間配分も的確で、保護者への配慮が随所に見られた。

教職員の子どもへの接し方も極めて丁寧で、一人ひとりを大切にする姿勢が伝わってくる。優しくあたたかいまなざしで子どもに向き合い、言葉がけも的確である。園児の目線に合わせて語りかける様子や、忘れ物をした際の柔軟で思いやりある対応など、日々の関わりにおいて教育的配慮が徹底されている。また、入退室の挨拶や礼儀も身についており、基本的生活習慣の指導も行き届いていると思われる。給食は栄養バランスに優れた内容で、家庭では手間のかかる煮物なども取り入れられており、子どもたちは美味しくいただいている。薄味で体にやさしい食事が提供されており、幼児期からの健やかな食生活の基礎が養われている。メニュー構成についても家庭ではあまり登場しない料理が取り入れられ、若い保護者にとっても学びの場となっている。

安全管理についても十分な配慮がなされており、体調不良時の迅速な対応、清掃や除菌対応、登降園時の安全管理など、事故防止に向けた意識が高く保たれている。日々の業務において教職員間の連携も良好であり、安心して子どもを預けられる体制が整っている。

施設環境についても、年々改善が進められ、園内は明るく清潔である。特に壁面や行事装飾などは季節感にあふれ、保育室や廊下に飾られる作品の展示は子どもたちの成長を感じさせるものである。保護者にも好評であり、園全体の雰囲気づくりに大きく貢献している。

今後は絵本コーナーの充実など、さらに子どもたちの感性を育む空間の整備が期待される。子どもたちの数が減少していく中においても、一人ひとりを大切にする保育を継続し、教職員が日々研究と工夫を重ねていることに大きな期待を寄せたい。本園には、あたたかく子どもに寄り添いながら誠実に保育にあたる教職員が多く在籍しており、地域に根差した教育の場として今後もますますの発展が期待される。